



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
夏号
平成28年7月
Vol.11

特集

◆ 天神さまと私 毎朝「南無天満大自在天神」と拝みます

東向観音寺住職
総本山御寺泉涌寺長老
真言宗泉涌寺派管長
上村 貞郎 師

◆ 北野御手水神事おちようずの復活——「北野七夕祭」開催
◆ 修学旅行の聖地——神前に願いを込め、連日にぎわう昇殿参拝

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公(菅公)をお祀りした全国の天満宮・天神社約一万二千社の宗祀(総本社)の神社です。天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年(九四七)六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年(九五九)右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加列、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。

寛弘元年(一〇〇四)、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、将軍家や有力大名の崇敬を受けております。文道太祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。そして菅公薨去延喜三年(九〇三)より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年(一六〇七)豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】
平安京の乾(北西)に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門(三辰信仰)から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

(平安京については裏面参考)

表紙写真 — 御本殿 特別拝観(通り抜け参拝)が行われる石の間(10.11頁参考) —

慶長12年(1607)、豊臣秀吉公の遺命により御子息の豊臣秀頼公が造営した桃山時代の絢爛豪華な建造物を代表する国宝御本殿。建築様式は「八棟造」「石の間造」と呼ばれ、入母屋造の本殿と拝殿が石の間を挟んで前後に建つ。石の間は神の世界(本殿)と人間の世界(拝殿)をつなぐ重要な空間として位置づけられている。

御挨拶

北野御手洗祭の再興と曲水の宴



金蒔絵の角盥と梶の葉

修学旅行シーズンを迎え、天満宮境内は全国よりお越しの数多くの学生の皆さんが、敬虔な心でご参拝される姿で満ち溢れております。皆様にはご健勝でお過ごしのことと拝察申し上げます。

桓武天皇の平安京遷都より千二百年に及び日本文化の中心となった京の都。その平安京の乾天門に勅命により御鎮座した北野社は、皇城鎮護の神として朝廷より崇敬され、やがて庶民から学問・芸能・文化等の神として信仰されるようになりました。

さて、ここ数年来、北野天満宮の日本文化への影響・貢献また創建以来の信仰の変遷、神事等につき調査・検討を行って参りましたが、千百二十五年半萬燈祭に向け境内整備とともに、当宮にとって歴史的に重儀であった神事等を現代に復活・再興していくこととなりました。

本年は旧暦七月七日に、北野御手洗神事として重要視されてきました北野御手洗祭を、本来の旧儀にて再興し、併せて諸祭事を斎行し、「京の七夕」北野紙屋川会場として正式に参画致します。

古来都の北西、衣笠山から湧き出る清水は、松葉川（西大宮川）を経て天満宮神域を流れて清められ、やがて聖水として御所の御用水に使用されてきました。こうしたことから北野御手洗祭は、御本殿内陣にて御手洗神事が高貴な人たちによって行われ、これに合わせて内陣に納められている御神宝類の虫干し等も行われてきたのであります。長い歳月とともに略儀に変容して参りましたが、この度国宝御本殿の石の間通り抜け神事を斎行し、殿内を参拝頂くとともに御神宝・御衣類を虫干しし、初めて拝観頂くことにしたものです。

また、整備しました境内西側紅梅殿前の菅公別離の庭におきましては、御手洗川足つけ燈明神事を斎行し、平安京ゆかりの禊として、北野御手洗祭の再興とするものです。この機会に多くの方々にご参加を戴き、天神様の一層の御神徳をお受け頂ければ幸甚に存じます。

一方、この別離の庭では本年十一月三日、裏千家千玄室大宗匠の来臨を仰ぎ北野天満宮講社大祭に併せて平安時代の曲水の宴を復元し「北野天満宮曲水の宴」を斎行致します。今後とも、北野天満宮の歴史・伝統に根ざした祭儀の復興、天神信仰の再興と宣揚に努めていく所存でございます。境内整備中ご参拝の皆様には種々ご迷惑、ご不便をおかけ致しますが、何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九



毎朝「南無天満大自在天神」と拝みます

東向観音寺住職
総本山御寺泉涌寺長老
真言宗泉涌寺派管長
上村 貞郎 師



東向観音寺



今号は、北野天満宮の一の鳥居をくぐってすぐ左側にある東向観音寺（朝日山観音寺）住職で京都市東山区、総本山御寺泉涌寺長老（真言宗泉涌寺派管長）の上村貞郎師をお迎えし、菅原道真公と皇室への篤い思いなどについてお話しいただいた。

―まず北野天満宮と東向観音寺との歴史的なご縁についておたずねします。

上村長老 寺伝によりますと、平安時代に桓武天皇の勅を奉じて御所の西北に鎮護国家のために建てられたのが始まりであり、当時は朝日寺と称していました。最鎮という和尚の時、大宰府で亡くなられた菅公の御霊をこの地にお迎えしてお社が建てられたということです。

―「多治比文子や朝日寺の僧最鎮らが協力し、一夜にして千本の松が生じた北野の地に天満宮を建てた」という当宮創建縁起がありますが、その話に繋がるわけですね。

上村長老 そういうことです。当時の朝日寺は、広い寺域を持つており、その一角に菅公をお迎えしてお祀りしたと伝わっています。その後、朝日寺は衰微しますが、鎌倉時代の終わりごろ、無人如導という和尚が中興され、観音寺と改称されました。元は東向と西向の両堂がありましたが、応仁の乱などで焼失し、西向は再建されませんでした。東向は豊臣秀頼公によって北野天満宮の本殿などといっしょに再建されています。

―まさに天満宮と一体なのでしょうね。

上村長老 その通りです。ご本尊の十一面観音は、伝ですけれど、道真公御作です。大宰府で自ら彫られた観音さんを請来した、と伝わっています。しかし、お厨子に入っておられる秘仏であり、住職でさえ開扉されない限り拝むことはできません。

―開扉は、天満宮の萬燈祭と関係があると聞いていますが。

上村長老 そうなんです。秘仏の観音さんの開帳といえは三十三年に一度というのが一般的ですが、うちのは菅



明治期に当宮から東向観音寺境内に移された伴氏廟

公さんの本地仏ですから菅公さんの年忌、萬燈祭に合わせて二十五年に一度となっています。ここでも天満宮と一体なんですよ。私が最初に萬燈祭にお参りしたのは十三歳の時でした。それから三十八歳の時、ついで平成十四年の千百年大萬燈祭と三度に及びます。次が千百二十五年の小萬燈祭となります。つまり次の観音さんのご開帳の時です。私の八十九歳の時です。もつともそれまで生きておればの話ですけど…。

—ずっと東向観音寺にお住まいですか。

上村長老 生まれた時からずっとここです。子どものころは、天満宮の境内が遊び場所でした。今のように駐車場はありませんでしたから大変広く、野球をして遊んだものです。翔鸞小から衣笠中、東寺高校（現洛南高校）と進みましたが、実のところ、子どものころは僧侶になるのが嫌だったのですよ。女ばかりで男の子どもは私一人だったんで、父は五歳の時に私を泉涌寺で得度させ、後継ぎにさせようとしたのに反発したのです。中学・高校と私は野球一辺倒でした。投手をしており、本気でプロ野球の選手になろうかと思っていました。東京六大学の一つからスカウトが来たぐらいですから、そこそこいつていたと思います。ところが、十八歳の時に父親が病気で倒れ、寝たきりになったんです。私が住職の代わりをせないかんようになったため、野球の道を諦め、種智院大学へ入って僧侶の勉強をしました。父親は七十歳まで生きましたが、十七年間寝たきりでしたので、その間、私がずっと寺のことをしてきました。

—お勤めされる時も菅公を拝まれると聞きましたが。

上村長老 そうですよ。毎朝のお勤めでは「南無天満大自在天神」と、菅公さんを拝ませていただいています。また、菅公さんの母君（伴氏）の供養塔が境内にあります。この供養塔は元々天満宮の伴氏社の向かいにあったものですが、明治の廃仏毀釈の時に境内に遷されたらしいです。ともかく菅公の母君の供養塔ですから、朝のお勤めの際には、いっしょに「南無伴氏御母儀」と、お唱えさせていただきます。

—なるほど、菅公さん、伴氏さん、篤い信仰ですね。

上村長老 かつて観音寺は、天満宮の奥の院という形で、神宮寺と呼んだ時もあったようです。本殿より前、一の鳥居をくぐったところにあるというのに、奥の院とは妙な言い方ですが、本来は東門が天満宮の正面だったという説もあります。私にはよくわかりませんが、ともかく昔から天満宮と一体に見られていたといえます。

—御寺泉涌寺の長老になられたのはいつでしょうか。

上村長老 平成十八年で、泉涌寺長老としては百五十四世です。



上村長老と橘宮司



大阿闍梨を務められた後七日御修法結願法要（平成20年1月 東寺）



総本山 御寺 泉涌寺 仏殿舍利殿

—すごい数字ですね。京都では門跡寺院の呼称がある寺院は多いですが、今も皇室と深い繋がりがあり、御寺と冠がつく寺は他にはありません。そのあたりを少しご説明下さい。

上村長老 中国、宋に学ばれた月輪大師俊苒が宋法式を取り入れて大伽藍を営まれたのが泉涌寺の始まりです。皇室が深く帰依され、仁治三年（一二四二）に四条天皇が泉涌寺に葬られて以来、歴代天皇の山陵が営まれるようになり、皇室の菩提所として篤い信仰を集めるようになりました。これが御寺と呼ばれる所以なのです。霊明殿には、天智天皇以降の歴代天皇の御尊牌が祀られています。

—それだけに大変なところもあるのでは。

上村長老 その通りです。御寺として他の寺と違うところがあります。昭和・大正・明治・孝明の各天皇と皇后八人に加えて、最初に泉涌寺に葬られた四条天皇の九名の方の月命日には、必ず霊明殿でお勤めすることになっています。そのほか、天皇皇后両陛下、皇太子殿下ご夫妻、各宮家の日々の御無事を祈るのも御寺としての責務です。他の寺から羨ましがられますが、今上陛下はもう六回ほど泉涌寺へお見えになっています。陛下が外国へ行かれる際には、無事を願って特別の祈禱をしますが、侍従長などを通じて陛下からお礼のお言葉があり、大変名誉に思っています。

—皇室に対してのような思いを持っておられるのでしょうか。

上村長老 一日でも長く日本の象徴としておいでいただければ、というのが私の気持ちです。ですから泉涌寺では、いつも皇室の安穩を祈っています。

—長老をされていて、何か感動されたことがありますか。

上村長老 毎年一月に東寺で、天皇陛下の御衣を供えて国家の安泰を祈る後七日御修法ごしちにちみほという大法要があります。その大阿闍梨といって御導師役を長老に就任した翌々年に務めさせていただきました。大阿闍梨は満七十歳以上でなければできないのですが、私はまだ六十九歳だったのです。これも御寺泉涌寺の長老故かもしれません。早朝にもかかわらず泉涌寺の人がたくさん出て、手を合わせてくれ大変感動しました。

—話は変わりますが、篆刻が趣味と伺っています。

上村長老 十八歳で野球選手になることを諦めた時、僧侶になるならそれらしきものと独学で始め、もうかれこれ六十年やっています。今は人に教えるまでになり、はんこ屋に負けないぐらいの腕を持つ弟子も何人か育てました。

—最後に、ご自身にとっての天神さんはどんな存在なのかお聞かせ下さい。

上村長老 私は、菅原道真公という人が大好きですよ。頭がよく、素晴らしい人だった故に妬まれ、あのようなご生涯を送られましたが、尊敬してやまないお方です。ですから、観音寺での毎朝のお勤めの際には「南無天満大自在天神」と唱え、一生懸命拝ませていただいているのです。

—ありがとうございます。

ハーバード大学アジアセンター 所長アーサー・クラインマン氏参拝



ハーバード大学教授であり、同大学アジアセンター所長のアーサー・クラインマン氏が五月二十八日、当宮に参拝された。

クラインマン所長は京都学園大学創立五十周年記念として開催される記念シンポジウムの基調講演を行うため日本を訪れており、所長自ら「是非、北野天満宮に参拝を」との強い思いによって実現した。

当宮はハーバード大学と大変縁深く、昨年秋に国宝『北野天神縁起絵巻』（平成記録本）を寄贈し、京都学園大学の田辺親男理事長らとともに「ハーバード・ジャパン・イベント」（ハーバード大学アジアセンター、ハーバード大学ライシヤワー日本研究所の共催）にも参加している。

国宝御本殿の参拝と重要文化財の三光門などを見学し、とくに宝物殿では現在公開中の刀剣を見られ、その説明に熱心に耳を傾けていた。



北野天満宮の社殿と祭礼を研究

ハーバード大学美術史建築史学部
日本美術史建築史専攻

ヘルフェンベルガーファビエンさん



ハーバード大学より社寺建築研究のため来日しているヘルフェンベルガーファビエンさんが六月十六日来社し、当宮史料の調査を行った。

十数年前日本に初めて留学。茶道を通じて日本文化に触れ、中でも日本の伝統建築や美術に興味を持ったという。

現在、同大学の博士課程を修めるため日々社寺建築の研究を重ねるファビエンさんは「数ある社寺の中でも、北野天満宮の社殿建築様式は十六世紀以降の社寺建築に大きな影響を与え、日本建築史において非常に重要である」と話されており、今後の研究が期待される。



天神信仰の益々の昂揚と梅風会の発展を祈願

全国天満宮梅風会第五十回記念総会開く

—— 田中恆清神社本庁総長が記念講演 ——

全国天満宮梅風会（会長 西高辻信良 太宰府天満宮宮司、本部 北野天満宮）の第五十回記念総会が六月二十日、菅原道真公を御祭神とする全国の神社から宮司を始め神職並びに総代ら関係者約二百人の出席のもと、北野天満宮を主会場として開かれ、天神信仰の益々の昂揚と会の発展を祈願した。

全国天満宮梅風会は、昭和四十二年、北野天満宮・太宰府天満宮・防府天満宮・大阪天満宮・道明寺天満宮・亀戸天満宮の六社の当時の宮司が発起人となり北野天満宮に於いて発会。毎年一回、各地で総会を開き、天神信仰の発揚と会の結束・発展を誓い合ってきた。そして、今年で五十年の節目を迎え、この日の第五十回記念総会となった。

総会に先立ち、正午から北野天満宮本殿において参加者全員の参列の下、第五十回記念奉告祭を斎行した。祭典では全参列者が声を合わせて大祓詞を奏上、また当宮巫女が「紅わらべ」を奉奏した。この「紅わらべ」は、約十五年前、全国天満宮梅風会が企画して作られた巫女舞で、菅公が五歳の時に詠まれた御歌「美しや紅の色



田中総長、会長、副会長、理事各位をはじめ総勢二百名による記念撮影



第五十回記念奉告祭（右：斎主 加藤迪夫北野天満宮権宮司奉仕 祝詞奏上、左：巫女舞 紅わらべ奉奏）



第五十回記念総会



記念植樹（先ず、西高辻会長、寺井理事による鋤入れの儀）



西高辻信良会長にあわせ玉串拝礼



記念講演
(神社本庁総長・石清水八幡宮宮司 田中恆清氏)

なる梅の花あこが顔にもつけたくぞある」をもとに、元宮内庁楽師の芝祐靖氏が作曲・作舞されたものである。次に参列者を代表して西高辻会長が玉串を捧げられた。

奉告祭終了後、西高辻会長、橘重十九副会長（北野天満宮宮司）、理事各位による記念植樹を執り行い、総勢二百名が楼門前に参集して記念撮影が行われた。

この後、上七軒歌舞舞練場に場所を移し、午後一時半から総会が開かれた。神宮及び奉務神社遙拝、国歌斉唱の後、敬神生活の綱領唱和、物故会員への黙禱に引き続き西高辻会長が「五十回目の大会に全国各地から参集頂き、このように盛大に開かれたことを大変嬉しく思います。各地の天神さまが、文化のセンター、心のセンターとして発展していくことを祈ります。」と挨拶された。平成二十七年の経過報告などの後、企画運営委員会の報告、次年度開催地を大阪梅風会が幹事として開催することなどの案件を了承し、寺井種伯理事（大阪天満宮宮司）の先導による聖寿万歳で総会を終えた。

総会后、神社本庁総長を務められる田中恆清石清水八幡宮宮司の「梅風会発会五十年を祝し」と題する記念講演が行われた。

京都での全日程終了後、バスで有馬温泉に移動し、夜は懇親会が開かれ、橘重十九副会長が歓迎の言葉を述べるとともに、乾杯の発声をした。二十一日は、姫路市の射楯兵主神社に正式参拝後、姫路城などの見学が行われた。



理事並びに支部長会議



講演の様子

七夕の夜に煌く「北野七夕祭」



御本殿

三光門

御手洗川



菅公御遺愛 松風の硯

**北野の御手水神事の復活
―御手洗ゆかりのお社―**

北野では七夕神事を御手洗祭と称して斎行し、古来よりこの祭は初秋にあたる北野の四季祭の一つと数え、大祓神事を意味する重儀として位置づけてきました。

御手洗祭は、内陣に松風の硯・角盥・水差し・梶の葉をお供えし、古くは祭典中に角盥の上で梶の葉に水差しの水をかける儀式があり、梶の葉は詩吟の短冊代わりとされました。古事によると御手洗祭前数日に亘り、御内陣の大御掃除を行い、御祭神の御装束類を清め、前三日は一切精進潔斎、前日夕は社中一同参籠し翌日の御手洗祭に奉仕したと伝わります。



平安時代、衣笠山麓より湧き出た西大宮川は、松葉川となり天満宮東側を流れることにより、清水として御所の御用水に使用されたと伝わる。また境内より汲まれた井戸水は宮水・香水と呼ばれ、神様へのお供えの水として北野の神事に使用されてき



1
**御手洗川の足つけ燈明神事と
五色の御手洗ろうそく祈願**

八月十二日(金) ～ 十四日(日) (三日間限定)
御手洗足つけ燈明神事
御本殿石の間通り抜け神事を紹介
―平安京ゆかりの清め神事と御本殿の特別公開―



た。境内に造られた御手洗川の清らかな水で邪気を祓い、心身共に清々しく夏を過ごす禊神事が足つけ神事である。

御手洗川では古式にならない神職が鑽り出した浄火を授かり、五色の御手洗ろうそくに火を灯す。



写真は7月末完成イメージです。

紅梅殿

別離の庭



史跡御土居のライトアップ

清き水に守られた

三辰信仰の聖地

平安時代、菅公の御神霊は村上天皇の勅命により平安京の最も重要な聖地、北西の乾にあたる「天門」に迎えられ、北野社（現在の北野天満宮）が建てられました。

北野の地は、衣笠山（現在の金閣寺辺り）を源泉とする西大宮川（松葉川）が流れ、その水は境内神域で清められて、平安京大内裏（大宮御所）の御用水として用いられたと伝わります。

以来、北極星が瞬く天門に鎮座する当宮は、天のエネルギーが満ちる三辰信仰（太陽・月・星に対する信仰）の聖地と御手洗神事ゆかりのお社として信仰されています。



陰陽五行の願いになぞられて

五色の『御手洗ろうそく』『星まもり』『水占みくじ』の授与

五色の願いになぞられた御手洗ろうそくと五色カード型の星まもり、そして水占みくじは陰陽五行の願いが込められた七夕特別授与品である。

御神水に浸すと文字が浮き出てくる水占みくじは、日本語と英語に対応し、外国人観光客や修学旅行生にも人気。浄火を灯もした御手洗ろうそくを手に持ち、御手洗川の清水でみくじを浸した後は三光門へと進む。



★陰陽五行の五色守

青色の御守

願事／芸道上達・スポーツ向上
成績向上・目的達成
業務成就

赤色の御守

願事／良縁成就・縁結び
子宝成就・家内円満

黄色の御守

願事／金運向上・商売繁盛
福德招来・職務繁栄

白色の御守

願事／開運招福・心願成就
就職成就・趣味達成

紫色の御守

願事／身体安全・健康回復
病氣平癒・延命長寿



石の間

皇室・藤原家・豊臣家・徳川家・前田家・島津家など歴代名家御奉納の燈籠



五色のろうそくに願いを込めて神前に進んで献燈し、夏を越え新たな半年の幸せを祈る。
陰陽五行の五色にそれぞれの願いを込め、身体健全・勉学増進・幸運・商売繁盛・家内安全等々の願いを天神さまに祈願する。



4
神前にろうそくを^{かざ}し、いよいよ御本殿内へ



3
天空に北極星輝く——三光門を通り御本殿へ進む

天子様が北野天満宮を拝されるとき、真上に北極星輝く御本殿・三光門

平安時代、平安京の大極殿は北野天満宮のすぐ南に位置していた。

北野が平安京の天門に位置する場所、帝が当宮を遥拝される際には三光門の真上に必ず北極星が瞬くという伝説や三光門に刻まれる三つの光（太陽・月・星）の信仰など、当宮はこれらを集約した三辰信仰の聖地と讃えられている。御手洗ろうそくを持って御本殿前に配された三光門を見上げ、天空の星たちを仰ぎながら、いよいよ御本殿に参拝する。





薩摩藩奉納 全国に有数の有田焼燈籠

初公開の狛犬

御神宝・御装束の展覧



八棟造国宝御本殿 特別公開と御神宝類展覧（虫干し）

神の世界（本殿）と人間の世界（拝殿）を

つなぐ石の間通り抜け神事

桃山時代の絢爛豪華な建造物を代表する国宝御本殿。慶長十二年（二六〇七）、豊臣秀吉公の遺命により、御子息の豊臣秀頼公が造営した。建築様式は、八棟造・石の間造と呼ばれる入母屋造の本殿と拝殿が石の間を挟んで前後に建っている。徳川家康公を東照大権現として祀る日光東照宮がこの形式を取り入れて以来、権現造と呼ばれるようになった。

石の間は神の世界（本殿）と人間の世界（拝殿）をつなぐ重要な空間であり、古事によれば御手洗祭前数日に亘り、内陣に供わる御祭神の御装束類・御神宝の虫干しを行っていたと伝わる。

古式にならい、御本殿を「石の間通り抜け神事」としてご参拝いただき、あわせて御神宝や初公開の狛犬、皇室をはじめ、藤原家・豊臣家・徳川家など歴代名家奉納の燈籠などの数々をご覧いただく。



みんなの願いを届けよう

北野天満宮・
北野紙屋川会場

主催／

北野七夕祭実行委員会

上七軒歌舞会

上七軒匠会

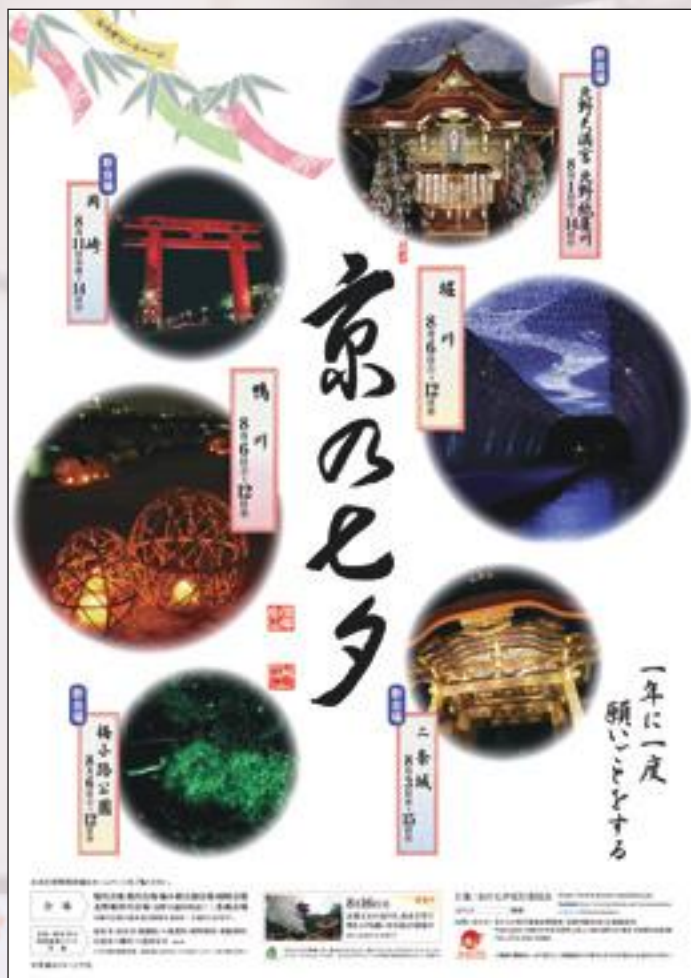
北野門前菅公会

北野商店街振興組合

大將軍商店街振興組合

北野天満宮神若会

北野天満宮



「京の七夕」ポスター

地域一体となり、
京都を盛り上げる「京の七夕」開催

「願い」をテーマに新たな京都の夏
の風物詩を作ろうと京都市が中心
となって取り組む「京の七夕」。

平安遷都より千有余年に亘り日
本の歴史・文化・伝統の中心であ
る京都、その乾の地に創建された
北野天満宮。その信仰は京都市民
ばかりでなく天神信仰として全国
に広まっています。北野の地で生
まれた文化・信仰を人々に発信し、
地域一体となり「京の七夕」を盛
り上げます。

〈北野七夕祭限定御朱印〉



「北野七夕祭」ポスター



〈宝物殿特別展〉

「狛犬と宝刀展Ⅱ」

◎開館期間／平成二十八年七月一日(金)～八月三十一日(水)
◎開館時間／午前九時～午後四時



学問の神・驚きの
北野天満宮
Guardian Statuary & Japanese Treasure Swords Exhibition
Kitano Tenmangu Treasure Hall

特別公開

恒次 重文
助守 重文
師光 重文
國広 重文
直次・清則・兼常・金道
直胤・包則 他三十五振一挙展示

時代によつて様々な名前に変わる刀
「鬼切丸」「髭切」「獅子ノ子」「友切」
太刀 安綱 鬼切丸
重要文化財(旧国宝)
平安時代初期 伯耆国大原安綱

脇指 猫丸 菅公の守刀

平成28年7月1日(金)～8月31日(水) 午前9時～午後4時
拝観料 一般 300円／中高生 250円／小人 150円
北野天満宮宝物殿 〒602-8386 京都市上京区馬鞍町 電話075-461-0005
北野天満宮ホームページ <http://kitanotenmangu.or.jp>



平成二十八年
七月一日より、特別展「狛犬と宝刀展Ⅱ」と題し、当宮に奉納された御神刀と狛犬を特別公開致します。

今回の特別展は、当宮所蔵の重要文化財『鬼切丸』や菅公の守刀と伝わる『猫丸』をはじめ、三十五振の刀を展示するとともに、境内に鎮座する四摂社(火之御子社・白太夫社・老松社・福部社)をおまもりした狛犬を一堂に公開し、天神信仰の一端をご覧頂きます。

「鬼切丸朱印帳」



宝刀展開催にあたり、太刀「鬼切丸」(別名「髭切」)の名を焼印した木製朱印帳と朱印帳ケースを授与します。

「朱印帳ケース」

この秋、北野天満宮の結婚式が生まれ変わります

― 御本殿挙式と紅梅殿挙式 ―

遠い昔のことでも、はつきりと覚えている幸せな記憶。まるで、心の中にある大切な絵本のようにその物語はいつまでも色褪せず、初めて感じた想いのまま、永遠に胸をとぎめかせる。

当宮はそんな想い出となる結婚式をご奉仕いたします。

美しい京都の四季を感じながら、

全国一万社以上鎮座する「天神さん」の総本社

北野天満宮を舞台に執り行われる挙式は、

おふたりの人生の門出を祝うに最もふさわしい儀式です。

厳粛な雰囲気の中、

天神さまのご加護のもとに、

おふたりの末永いご多幸とご両家の益々のご繁栄をご祈念申し上げます。

※今秋を目途に、新しい北野天満宮の挙式をご案内する予定です。





※写真はイメージです。

史跡御土居の

もみじ苑

菅公御歌

このたびは 幣もとりあへず 手向山
紅葉の錦 神のまにまに

■史跡御土居のもみじ苑

期間／平成二十八年十月二十五日(火)～十二月四日(日)

時間／午前九時～午後四時

■もみじ苑ライトアップ

期間／平成二十八年十一月十二日(土)～十二月四日(日)

時間／日没～午後八時

■入場料＝大人七〇〇円・こども 三五〇円 (茶菓子付き)

境内西側には、天正十九年(一五九二)豊臣秀吉公が洛中洛外の境界、また水防のために築いた土塁、御土居の一部が残存しており史跡に指定されています。

この史跡御土居には、現在でも往時の自然林が残り、四季折々の美しさを感じることが出来ます。

なかでも、秋の紅葉は菅公がこよなく愛でられた樹木のひとつで、御土居一带におよそ三五〇本、樹齢三五〇年から四〇〇年に及ぶ古木が姿を残し、菅公の御神徳を偲ぶかのごとく鮮やかに季節を彩ります。





オカリナと和歌



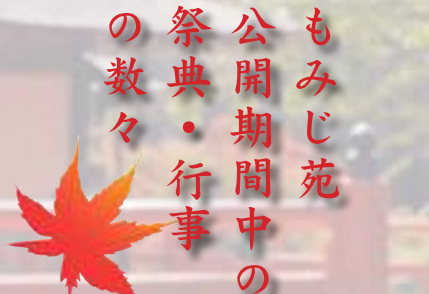
京都三大学交響楽団



京都連歌の会



御茶壺道中



もみじ苑
公開期間中の
祭典・行事
の数々



上七軒日本舞踊



献茶祭



北野天神もみじ寄席



北野天神太鼓会



12月1日(木)	午前10時	献茶祭(当番・堀内家長生庵 堀内宗完宗匠奉仕)	御本殿ほか
11月26日(土)	午前11時	御茶壺奉献告祭・口切式	御本殿
11月23日(水・祝)	午後5時	神若会 北野天神太鼓会和太鼓奉納	紅梅殿
11月25日(金)	午後6時	新嘗祭	紅梅殿
11月20日(日)	午後10時	御縁日	境内
11月19日(土)	午後3時	京都文教大学よさこいサークル 風竜舞伝	御本殿
11月13日(日)	午後5時	神若会 北野天神太鼓会和太鼓奉納	紅梅殿
11月12日(土)	午後6時	露の五郎兵衛一門碑前祭	紅梅殿
11月5日(土)	午後2時	北野天神もみじ寄席	右近馬場
10月29日(土)	午後5時	京都三大学交響楽団オーケストラ	社務所大広間
10月25日(火)	午後1時	上七軒日本舞踊	紅梅殿
10月23日(木・祝)	午後2時	神若会 北野天神太鼓会和太鼓奉納	御土居舞台
10月21日(土)	午後5時	天満宮講社大祭・曲水の宴	紅梅殿
10月19日(日)	午後1時	京都連歌の会	別離の庭
10月17日(火)	午後2時	余香祭・献詠歌被講式	紅梅殿
10月15日(木)	午後3時	御縁日	御本殿
10月13日(土)	午後4時	御縁日	境内

もみじ苑公開期間中の主な祭典・行事

※都合により行事の変更・追加がございます。

北野の



齋行された祭典・行事

〔四月～七月〕

明祭、晴れやかに齋行
無実の喜びを神前に奉告



御祭神菅原道真公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、その喜びを神前に奉告する明祭を本殿で午前十時から齋行した。

菅公は従二位右大臣の位にあつた昌泰四年（九〇一）の正月、左大臣の藤原時平の讒言によつて無実の罪をきせられ、大宰権帥に左降され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のな

明祭

か大宰府において薨去された。

しかし、二十年後の延長元年（九二三）四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位も一階級上げ、正二位を追贈、左降の文書を焼却する措置がとられた。また、正暦四年（九九三）六月には正一位左大臣を、同年閏十月には太政大臣を追贈されている。

江戸時代の賣茶翁が茶祖

賣茶本流献茶式

煎茶の賣茶本流献茶式が四月十日午前十時から本殿で齋行された。

賣茶本流は、江戸時代中期の高遊外（賣茶翁の名で呼ばれた）を茶祖とする煎茶道で、献茶式は昭和二十七年以来の恒例。

社中の方が参列される中、家元の渡邊琢祥宗匠の奉仕によつて神前に煎茶が献上された。式典後、明月舎に茶席が設けられた。



賣茶本流献茶式

文子天満宮例祭

神輿が氏子区域を巡行

末社文子天満宮の例祭が四月十四日から十七日まで四日間にあたり齋行された。

文子天満宮は、当宮の創建にたずさわった多治比文子が最初に菅公をお祀りした宅地跡を霊地として建てられたが、明治初期に境内の現在地に遷された。例祭は、地域の人たちから「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて親しまれている。

神幸祭



還幸祭



神幸祭の十四日は、午後二時から文子天満宮前で祭典を齋行、御神霊が遷された神輿は、神職や西之京瑞饋神輿保存会の人たちのお供によつて同天満宮御旅所（上ノ下立売天神筋上ル）まで渡御した。

還幸祭の十七日は午後一時から御旅所で祭典後、再び神輿は保存会の人たちに護られて氏子区域を巡行、文子天満宮へ還幸した。

「雷除大祭」にぎわう 摂社火之御子社の例祭



「雷除大祭」の愛称で親しまれる摂社火之御子社の例祭を、六月一日午前四時から斎行した。

火之御子社は火雷神を祀り、当宮が鎮座する前から「北野の雷公」と呼ばれてこの地にあつた古社で、雷電・火難・五穀豊穡の守護神として朝廷からも篤い信仰を受けた。今でも

雷除けの信仰は強く、電力会社員や電気工事従事者・釣り人・ゴルフ愛好家らの参拝が多い。

祭典は、開門前の暁闇の中で斎行され、火之御子社の神前で雷除けのお守・お札のお祓いをし、五穀豊穡を祈願した。この雷除けのお札・お守は午前五時の開門と同時に授与が開始され、終日にぎわった。

また、この日の恒例となつた京都産業大学「落語長屋」による落語奉納も絵馬所で行われ、参拝者を笑いに誘っていた。

雷除大祭



酒造りの安全と業界の 繁栄を祈願する献酒祭斎行



酒造の安全と業界の繁栄を祈る献酒祭を五月十一日午前十一時から本殿で斎行した。

室町時代、西ノ京の当宮神人に翹づくりの特権（北野翹座）が与えられたことから酒造関係者の崇敬が続き、献酒祭はこの時期の恒例の祭典となつている。酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、玉串を捧げて良い酒が出来たことを感謝し、酒造りの安全と業界の繁栄・関係者の息災を祈願した。

◎ 献酒戴いた酒造会社・酒造組合は次の通り。（順不同）
佐々木酒造・松井酒造・宝酒造・増田徳兵衛商店・豊澤本店・黄桜・東山酒造・齊藤酒造・北川本家・山本本家・月桂冠・山本勘蔵商店・京姫酒造・平和酒造・藤岡酒造・キンシ正宗・玉乃光酒造・鶴正酒造・都鶴酒造・招徳酒造・城陽酒造・奈良豊澤酒造・丹山酒造・関酒造・大石酒造・長老・羽田酒造・浪乃音酒造・平井商店・古川酒造・太田酒造・暁酒造・松瀬酒造・喜多酒造・矢尾酒造・愛知酒造・藤居本家・沢の鶴西日本支店・白鶴酒造大阪支社・本野田酒造・日本盛・北山酒造・白鷹・松竹梅酒造・辰馬本家酒造・國産酒造・万代大澤醸造・大澤本家酒造・大関・今津酒造・櫻正宗・菊正宗酒造・小山本家酒造・灘浜福鶴蔵・剣菱酒造・安福又四郎商店・福徳長酒類関西支店・木下酒造・福光屋・三宅本店・伏見酒造組合・滋賀県酒造組合・西宮酒造家十日会・灘五郷酒造組合

子供の健やかなる成長を願う 児童成育祈願祭



献酒祭

児童成育祈願祭



「端午の節供」にあたる五月五日、午前十時より児童成育祈願祭を斎行した。現在は「こどもの日」として一般に親しまれるこの日、御神前に柏餅とちまきをお供えし、児童らの健やかなる成育と日々の安全無事を祈願した。

宮渡祭を斎行

当宮が北野の現在地に鎮座された日に当たる六月九日、本殿において午前十時から宮渡祭を斎行した。
大宰府で薨去された菅公の御神霊が、北野の地に鎮まりたいと西ノ京に住む多治比文子、近江比良宮の主神良種の子と、二度にわたりご神託をされ、北野朝日寺の僧最鎮らが協力し、天暦元年（九四七）六月九日、現在地に社殿を建立した。毎年、この日に宮渡祭を斎行して往時を偲んでいる。

宮渡祭



「大福梅」の梅の実採取 二・二トンを収穫



梅の実採取

正月の縁起物「大福梅」の梅の実の採取が六月三日から一週間にわたり、神職・巫女・職員・氏子崇敬者らによって行われた。
境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、今年も順調に大きく実を膨らませており、例年通り約二・二トンを収穫した。収穫した梅は樽で塩漬にされ、梅雨明けを待つて土用干しにされる。

二條流献茶式

二條雅莊家元がお点前



煎茶道の二條流献茶式が六月十二日午前十時から本殿で斎行された。
社中の方が参列される中、二條雅莊家元のご奉仕によつてお点前が行われ、神前に煎茶が献上された。祭典後、明月舎に茶席が設けられた。



二條流献茶式



大茅の輪くぐり

七夕祭



御誕辰祭



菅公の誕生日の六月二十五日、本殿で御誕辰祭を厳肅に斎行した。また楼門では、直径五メートルという京都では最大級の大きさの「大茅の輪くぐり」が行われ、午前五時の開門とともに夏の健康を願う参拝者が次々くぐり抜け、終日大賑わいとなった。

天神さんの御縁日の中でも六月は「夏越天神」と呼ばれ、楼門での大茅の輪をくぐって夏の健康を願う信仰が定着しており、参拝者がひとときわ多い。御誕辰祭は、前夜から神社に参籠、精進潔斎していた宮司・神職によって午前九時から本殿で厳肅に斎行された。この後、菅公の母君を祀る伴氏社の巡拝が執り行われた。

本殿で御誕辰祭、楼門では大茅の輪くぐり
夏の健康を願う「夏越天神」大賑わい



夏越の大祓式

夏越の大祓式を六月三十日午後四時から本殿前中庭で崇敬者・参拝者約五百人の参列のもと斎行した。

この半年間に身についた罪や穢れを祓い、清々しい身体で夏を過ごすことを願う神事。全員で大祓詞を奏上後、切麻で邪気を祓い、神職を先頭に参列者が中庭に設けられた背丈ほどの大きさの茅の輪を古式通りに三回くぐって災厄を祓った。

また半年間に納められた人形や車形代も唐櫃に入れられ、これを神職が担ぎ、茅の輪をくぐった。

半年間の罪や穢れを祓う
夏越の大祓

本殿で厳肅に御手洗祭
中ノ森広場では園児ら棚機（七夕）祭

菅公の御歌「彦星の行あいを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」にちなむ故事を基にした伝統の七夕神事、御手洗祭を七月七日午前十時から本殿で菅公御遺愛と伝わる「松風の硯」などをお供えして厳肅に斎行した。

また、午後からは境内中ノ森広場特設舞台において、氏子区域の幼稚園児・保育園児約三百人の参列のもと恒例の棚機祭（七夕祭）を斎行した。

子どもたちの様々な願い事を書いた笹飾りが飾られる中、祭典があり、子どもたちが手を合わせて文芸などの上達を祈った後、歌や遊戯の披露が行われた。

史跡御土居の「青もみじ」公開、今年も好評 宝物殿の「宝刀展」が後押し



史跡御土居の「青もみじ」特別公開が四月十六日から五月三十一日まで行われた。宝物殿では春先大好評だった「宝刀展」を再開、共通の入苑・入館券が後押しして、青葉が目にしむ新緑の御土居は、昨年に続き連日の賑わいを見せた。

豊臣秀吉公が京都の四囲に築いた御土居は、当宮境内では紙屋川に沿って残り、史跡に指定されている。現在でも自然林が多く残り、中でもみじは約三百五十本もあり、毎年秋には「もみじ苑」として公開、参拝者や観光客が多数訪れ、「錦秋の美」を堪能する。

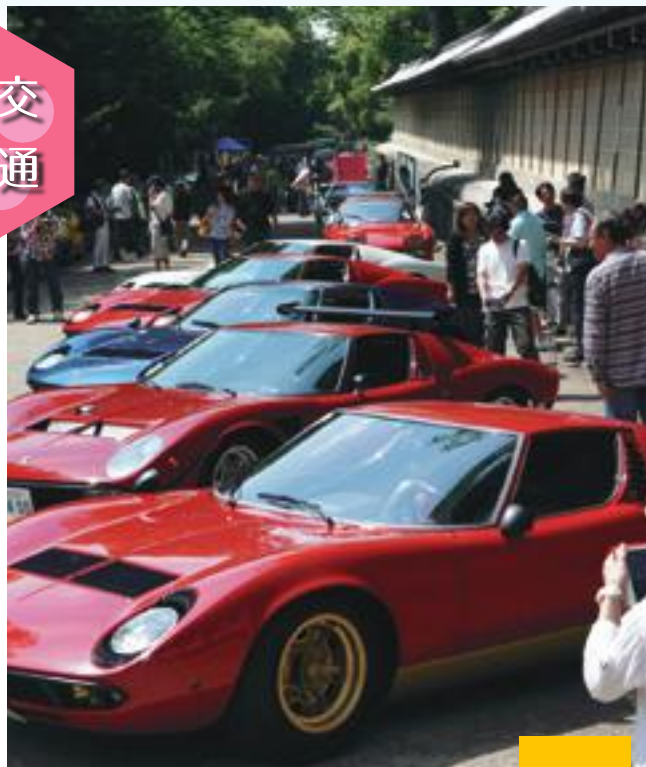
このみじが新緑のころには、見事な「青もみじ」に変わるところから、春の御土居公開を望む声が高く、昨年からの時期も公開している。宝物殿では同じ期間中、重文指定五振を含む三十五振の御神刀が並ぶ「宝刀展」が再開され、相変わらずの人気を見せていた。

また神若会北野天神太鼓会の会員約二十人が五月三日午後一時から一の鳥居前で太鼓を奉納し、約百人の参拝者や通りがかりの観光客らに見事なパチさばきを披露して公開中の「青もみじ」のPRをした。



スーパーカーやクラシックカーが交通安全祈願で北野天満宮を参拝

交通安全
祈願全通



牛のエンブレムが結集、交通安全祈願
ランボルギーニの伝統車を太鼓会が出迎え

「牛」のエンブレムで知られるイタリア製のスーパーカー、ランボルギーニのクラシック車二十四台が、五月十五日当宮に勢ぞろいし、交通安全のお祓いを受けた。製造後二十年以上が経過し、改造などの手を加えていない車の愛好家による催しで、牛が天満宮の御祭神のお使いであることより、この催しとなった。ランボルギーニを神若会北野天神太鼓会が和太鼓で出迎えるという、洋と和の競演もあり、参拝者の目を楽しませた。車の所有者ら約五十人が昇殿参拝し、交通安全の祈願をした後、代表らが献木した梅を植樹、車のお祓いを受けた。

西川淳代表は「ランボルギーニの伝統を守るための催し。牛の縁で交通安全のお祈りをした」と話されていた。

クラシックカー36台が集結、交通安全祈願

第六回「コッパ・デイ・京都」

「走る自動車博物館」との異名を持つクラシックカーが京都市内や丹後半島を走行する第六回「コッパ・デイ・京都」の催しが六月十一・十二日の両日行われ、初日の十一日午前、当宮に結集した三十六台のクラシックカーがお祓いを受けた。

一九二三年製の「ブガッティ」（イタリア車）、一九二九年製の「ベントレー」（イギリス車）を始め一九五〇年製を中心としたクラシック車がずらり。自動車の歴史を彩った世界の名車の結集だけに、多くの車愛好家や参拝者が、のぞき込んだり、カメラに収めたりしていた。

オーナーらは昇殿参拝し、交通安全のお祓いを受けた後、丹後方面に向けて次々出発していった。





七月二十五日

新茶奉献奉告祭

宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・和束・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城の茶所より摘まれた新茶を神前に供え、献茶家の家内安全と繁栄を祈願する。



八月四日

例祭（北野祭）

永延元年（九八七）八月、北野社を一條天皇が初めて行幸されるに際し、「北野天満天神」の神号が与えられ、北野祭を勅祭として斎行された。爾来、天皇の行幸は二十数度に亘り、古来勅使も参向した一年で最も大切な祭典。また、農耕の神としての御神徳を景仰し、氏子である西ノ京の農家より夏野菜が奉納される。



七月中旬〜八月中旬

大福梅の土用干し

正月の縁起ものとして事始め（十二月十三日）から授与する「大福梅」調製の梅の実を、梅雨明けをうけて神職・巫女総がかりで土用干しする。



七月十五日

自衛消防訓練

夏の文化財防火デーにあたる七月中旬、当宮において上京消防署と当宮自衛消防隊・翔鸞学区自主防炎会・翔鸞消防分団などの連携による防火訓練を行う。





祭事暦（7月1日～9月30日）



【7月】

7月1日	午前10時	月首祭
6日	午後4時	御手洗祭前夕饗
7日	午前10時	御手洗祭
	午前10時半	天満宮講社奉賛奉告祭
	午後1時半	棚機祭
12日	午前10時	當日祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午前11時	新茶奉献奉告祭
	午後4時半	夕神饗

【8月】

8月1日	午前10時	月首祭
4日	午前9時	例祭（北野祭）大祭式
14日	午前11時	学業大祭
	午後1時	祈願絵馬焼納式
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時半	夕神饗
28日	午後3時	奉納図画展授賞式

【9月】

9月1日	午前10時	月首祭
15日	午前10時	月次祭
	午後4時	明月祭
22日	午前10時	秋季皇霊祭遙拝式
24日	午前9時	神輿飾り
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饗
26日	午後4時	瑞饋祭稚児奉仕者奉告祭



月釜献茶（7月1日～10月31日）



【7月】

7月1日	献茶祭保存会	大塚宗香	（明月舎）
10日	梅交会	合同茶会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	戴内燕庵社中	（明月舎）
	松向軒保存会	休 会	（松向軒）
24日	紫芳会	紫芳会	（松向軒）

【8月】

8月1日	献茶祭保存会	不審菴社中	（明月舎）
7日	梅交会	休 会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	休 会	（明月舎）
	松向軒保存会	休 会	（松向軒）
28日	紫芳会	休 会	（松向軒）

【9月】

9月1日	献茶祭保存会	前田宗音	（明月舎）
11日	梅交会	吉岡宗美	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	藤谷宗美	（明月舎）
	松向軒保存会	村上宗美	（松向軒）
25日	紫芳会	布施宗青	（松向軒）

【10月】

10月1日	献茶祭保存会	徳永宗住	（明月舎）
9日	梅交会	扶桑会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	北野宗道	（明月舎）
	松向軒保存会	濱 宗貴	（松向軒）
23日	紫芳会	新居万太	（松向軒）



奉納図画展

夏休み恒例となっている奉納図画展が八月十八日より西廻廊で開催され、子供たちが描いた力作を展示する。

八月二十八日

奉納図画展授賞式

入賞者参列のもと祭典を斎行し、授賞式を執り行う。

八月十八日～二十八日



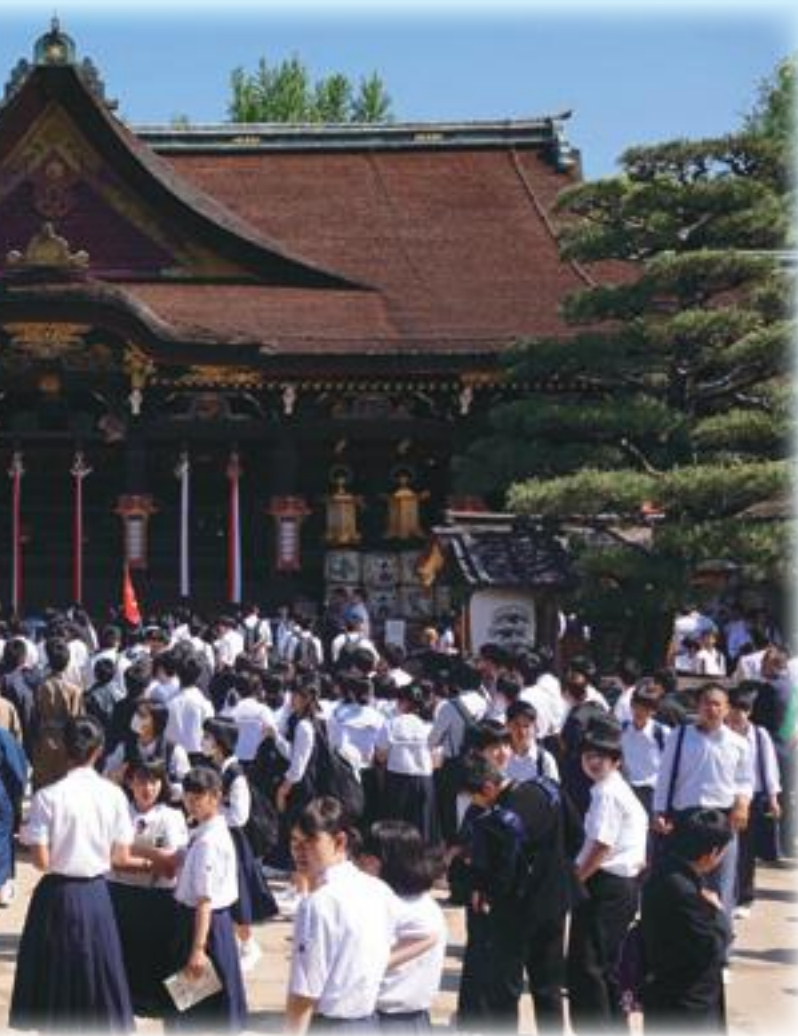
北野七夕祭

境内夜間参拝
史跡御土居ライトアップ

八月一日～十四日

七夕笹で飾られた境内一円をライトアップの光が照らし幻想的な雰囲気 연출。期間中の様々な行事とともに七夕の夕べを盛り上げます。





修学旅行の聖地 北野天満宮

「志望校に合格しますように」「学力が向上しますように」
修学旅行生の昇殿参拝ピーク

五月には一日六十四クラスの日も

修学旅行生の昇殿参拝は年々増加の傾向にあるが、今年も五月十九日の六十四クラスを最高に四月上旬にかけての約三カ月間の昇殿参拝のクラス数は千八百八十七クラスに上り、昨年を約百クラスも上回る数となった。五月はピークで、「志望校に合格しますように」「学力が向上しますように」と神前に祈る若者の真剣な姿でわき返った。

春と秋が中心となる修学旅行生の昇殿参拝は、中学と高校生が大半を占め、とくに春が多い。

月ごとに見ると、四月三百七十七クラス（昨年三百五十七クラス）、五月七百五十五クラス（同七百三十四クラス）、六月六百六十四クラス（同六百七十四クラス）と、いずれの月も昨年を上回り、三カ月の総計は千七百九十二クラス（同千六百八十五クラス）に上った。

とくに五月は多く、十九日の六十四クラスを最高に二十五日五十四クラス、十二日四十九クラス、十七日四十八クラスと、一日四十クラスを上回る日が十日もあり、月間のトータルでは七百五十五クラスと、多かった昨年をさらに二十一クラスも上まわった。本殿前中庭は連日昇殿の順番を待つ学生でごった返す賑わいとなり、修学旅行生の聖地であることを見せつけた。

昇殿参拝した学校を見ると、北海道から徳島県と幅広く、茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・長野・静岡・神奈川などの各県が目立っている。

また、七月の昇殿参拝の予約数も六月末現在、九十五クラスと昨年の実数を上回っている。

このほか、スケジュールなどの都合で昇殿参拝できずに本殿前で手を合わせ、受験生に人気の高い一願成就の牛舎に参拝して絵馬を奉納したり、タクシーなどによる班別参拝も相当数あり、三十万人を超える生徒たちが祈願に訪れた。



◆ 修学旅行参拝者数

(平成二十八年四月一日～七月十五日) 但し、お申し出を頂いた数

四月	五月	六月	七月	合計
昇殿参拝 一五四校	昇殿参拝 二九七校	昇殿参拝 二五七校	昇殿参拝 四六校	昇殿参拝 七五四校
三七七クラス	七五五クラス	六六〇クラス	九五クラス	一八八七クラス
自由参拝 二二二校	自由参拝 五五五校	自由参拝 四三七校	自由参拝 六六校	自由参拝 一二七〇校

※その他、タクシー参拝・班別参拝等を合わせると、
およそ三十万人の修学旅行生の方々が参拝されました。

此の度の参拝を心の支えとされ、
また天神さまのご加護によりご祈願の成就をお祈り申し上げます。



桐生市立川内中学校 一クラス
伊勢崎市立あずま中学校 四クラス
みどり市立東中学校 一クラス
前橋市立第三中学校 一クラス
高崎市立新町中学校 一クラス
みなかみ町立水上中学校 一クラス
高崎市立高南中学校 三クラス
伊勢崎市立第四中学校 一クラス
高崎市立片岡中学校 一クラス
富岡市立西中学校 二クラス
富岡市立富岡中学校 二クラス
伊勢崎市立第二中学校 四クラス
安中市立松井田北中学校 一クラス
安中市立松井田南中学校 一クラス
高崎市立群馬南中学校 一クラス
千代田町立千代田中学校 三クラス
伊勢崎市立宮郷中学校 三クラス
太田市立木崎中学校 三クラス
高崎市立箕郷中学校 四クラス
高崎市立大類中学校 二クラス
みなかみ町立月夜野中学校 三クラス
高崎市立吉井中央中学校 二クラス
前橋市立元総社中学校 一クラス
前橋市立第六中学校 一クラス
前橋市立宮城中学校 一クラス
高崎市立入野中学校 二クラス



●埼玉県
川口市立鳩ヶ谷中学校 二クラス
さいたま市立与野西中学校 三クラス

深谷市立上柴中学校 一クラス
新座市立第二中学校 三クラス
川口市立西中学校 三クラス
秩父市立尾田蔭中学校 二クラス
加須市立加須平成中学校 二クラス
深谷市立明戸中学校 一クラス
熊谷市立富士見中学校 二クラス
さいたま市立城南中学校 三クラス
さいたま市立土呂中学校 一クラス
さいたま市立尾間木中学校 一クラス
加須市立昭和中学校 二クラス
さいたま市立慈恩寺中学校 一クラス
春日部市立武里中学校 三クラス
春日部市立大増中学校 一クラス
羽生市立南中学校 二クラス
越谷市立東中学校 二クラス
越谷市立西中学校 一クラス
久喜市立久喜中学校 一クラス
八潮市立八潮中学校 二クラス
行田市立南河原中学校 二クラス
松伏町立松伏中学校 二クラス
松伏町立松伏第二中学校 一クラス
越谷市立千間台中学校 一クラス
上尾市立大石南中学校 一クラス
吉川市立中央中学校 四クラス
深谷市立南中学校 二クラス
八潮市立潮止中学校 一クラス
吉川市立東中学校 一クラス
さいたま市立田島中学校 一クラス
春日部市立春日部中学校 三クラス
熊谷市立江南中学校 三クラス
入間市立豊岡中学校 一クラス
さいたま市立内谷中学校 一クラス
さいたま市立美園中学校 二クラス
上尾市立上平中学校 一クラス
越谷市立武蔵野中学校 四クラス
川口市立十二月田中学校 四クラス
川口市立八幡木中学校 一クラス
川口市立岸川中学校 三クラス
上尾市立上尾中学校 一クラス
さいたま市立岸中学校 二クラス
川口市立榛松中学校 三クラス
さいたま市立春野中学校 一クラス
川口市立戸塚中学校 三クラス
さいたま市立大宮東中学校 一クラス
三郷市立南中学校 一クラス
三郷市立早稲田中学校 三クラス

さいたま市立原山中学校 一クラス
川口市立芝東中学校 二クラス
川口市立里中学校 四クラス
川口市立北中学校 三クラス
深谷市立川本中学校 三クラス
さいたま市立土合中学校 二クラス
さいたま市立泰平中学校 一クラス
川口市立元郷中学校 一クラス
川口市立仲町中学校 二クラス
行田市立見沼中学校 一クラス
さいたま市立三室中学校 二クラス
加須市立加須東中学校 一クラス
さいたま市立八王子中学校 三クラス
上尾市立原中学校 一クラス
埼玉みらい高等学校 一クラス
加須市立加須北中学校 一クラス
三郷市立瑞穂中学校 二クラス
北本市立東中学校 四クラス
さいたま市立馬宮中学校 二クラス
さいたま市立大宮南中学校 一クラス
川口市立戸塚西中学校 二クラス
入間市立上藤沢中学校 一クラス
朝霞市立朝霞第三中学校 四クラス
久喜市立菖蒲中学校 二クラス
越谷市立平方中学校 一クラス
吉川市立南中学校 二クラス
さいたま市立本太中学校 五クラス
川口市立南中学校 四クラス
さいたま市立大成中学校 四クラス
さいたま市立桜木中学校 二クラス
幸手市立西中学校 二クラス
川口市立安行中学校 五クラス
所沢市立東中学校 一クラス
羽生市立東中学校 二クラス
秩父市立荒川中学校 二クラス
神川町立神川中学校 二クラス
春日部市立豊野中学校 四クラス
川口市立領家中学校 四クラス
川口市立幸並中学校 二クラス
熊谷市立大幡中学校 二クラス
さいたま市立日進中学校 一クラス
川口市立神根中学校 三クラス
さいたま市立東浦和中学校 四クラス
さいたま市立三橋中学校 五クラス
さいたま市立白幡中学校 一クラス
白岡市立南中学校 一クラス
さいたま市立大谷口中学校 二クラス

久喜市立栗橋西中学校 一クラス
川口市立安行東中学校 四クラス
川口市立上青木中学校 三クラス
川口市立東中学校 二クラス
蕨市立第一中学校 一クラス
蕨市立第二中学校 二クラス
戸田市立喜沢中学校 一クラス
戸田市立新曽中学校 四クラス
熊谷市立妻沼西中学校 一クラス
白岡市立篠津中学校 一クラス
宮代町立須賀中学校 二クラス
杉戸町立杉戸中学校 一クラス
上尾市立大谷中学校 一クラス
鴻巣市立鴻巣北中学校 一クラス
鴻巣市立鴻巣西中学校 二クラス
上尾市立東中学校 三クラス
行田市立忍中学校 二クラス
行田市立西中学校 一クラス
熊谷市立三尻中学校 一クラス
所沢市立狭山ヶ丘中学校 二クラス
三郷市立北中学校 二クラス
羽生市立西中学校 三クラス
春日部市立緑中学校 三クラス
春日部市立豊春中学校 一クラス
さいたま市立岩槻中学校 一クラス
三郷市立彦糸中学校 一クラス
さいたま市立柏陽中学校 三クラス
さいたま市立大砂土中学校 三クラス
さいたま市立植竹中学校 一クラス
春日部市立東中学校 六クラス
さいたま市立宮前中学校 一クラス
さいたま市立第二東中学校 一クラス
三郷市立栄中学校 一クラス
越谷市立大袋中学校 三クラス
上尾市立大石中学校 三クラス
戸田市立笹目中学校 二クラス
三郷市立前川中学校 二クラス
さいたま市立与野東中学校 五クラス
越谷市立大相模中学校 二クラス
入間市立藤沢中学校 五クラス
飯能市立加治中学校 一クラス
狭山市立狭山台中学校 二クラス
越谷市立南中学校 三クラス
加須市立加須西中学校 四クラス
越谷市立栄進中学校 二クラス

越谷市立富士中学校 六クラス
越谷市立光陽中学校 一クラス
越谷市立中央中学校 二クラス
越谷市立北中学校 五クラス



●千葉県
富里市立富里北中学校 三クラス
八街市立八街南中学校 二クラス
船橋市立海神中学校 一クラス
船橋市立飯山満中学校 一クラス
柏市立高柳中学校 五クラス
市川市立第四中学校 一クラス
松戸市立第二中学校 二クラス
山武市立成東中学校 二クラス
松戸市立白井西中学校 二クラス
佐倉市立立白井中学校 四クラス
千葉市立打瀬中学校 一クラス
浦安市立明海中学校 四クラス
船橋市立前原中学校 一クラス
東金市立東中学校 三クラス
浦安市立見明川中学校 三クラス
松戸市立小金南中学校 二クラス
栄町立栄中学校 一クラス
船橋市立大穴中学校 二クラス
白井市立南山中学校 一クラス
松戸市立常盤平中学校 一クラス
浦安市立日の出中学校 五クラス
松戸市立栗ヶ沢中学校 三クラス
松戸市立六実中学校 一クラス

流山市立八木中学校	三クラス
鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校	一クラス
柏市立田中中学校	五クラス
印西市立滝野中学校	一クラス
柏市立西原中学校	一クラス
柏市立富勢中学校	二クラス
柏市立柏第二中学校	五クラス
野田市立第一中学校	二クラス
野田市立南部中学校	五クラス
柏市立大津ヶ丘中学校	三クラス
野田市立第二中学校	一クラス
佐倉市立志津中学校	三クラス
成田市立玉造中学校	三クラス
白井市立白井中学校	二クラス
印西市立印旛中学校	五クラス
流山市立東深井中学校	二クラス
松戸市立小金中学校	五クラス
成田市立西中学校	二クラス
柏市立中原中学校	三クラス
山武市立成東東中学校	四クラス
印西市立木刈中学校	二クラス
富里市立富里中学校	三クラス
いすみ市立岬中学校	三クラス
習志野市立第二中学校	八クラス
柏市立柏第三中学校	一クラス
一宮町立一宮中学校	一クラス
柏市立南部中学校	二クラス
柏市立光ヶ丘中学校	三クラス
柏市立松葉中学校	二クラス
市原市立姉崎中学校	三クラス
鎌ヶ谷市立第五中学校	四クラス
流山市立南部中学校	二クラス
東金市立東金中学校	二クラス
柏市立豊四季中学校	六クラス
習志野市立第七中学校	二クラス
流山市立常盤松中学校	二クラス
市川市立第八中学校	四クラス
我孫子市立白山中学校	一クラス
我孫子市立久寺家中学校	四クラス
松戸市立河原塚中学校	二クラス
横芝光町立光中学校	三クラス
松戸市立旭町中学校	一クラス
松戸市立牧野原中学校	一クラス
我孫子市立湖北中学校	一クラス
松戸市立第五中学校	五クラス
松戸市立第六中学校	七クラス
浦安市立入船中学校	二クラス

流山市立南流山中学校	二クラス
習志野市立第四中学校	四クラス
流山市立北部中学校	一クラス
東京都	
世田谷区立駒沢中学校	一クラス
品川区立鈴ヶ森中学校	一クラス
三鷹市立第三中学校	二クラス
羽村市立羽村第三中学校	三クラス
青梅市立第二中学校	三クラス
神奈川県	
横浜国立岩崎中学校	一クラス
横浜市立舞岡中学校	一クラス
川崎市立渡田中学校	一クラス
伊勢原市立伊勢原中学校	六クラス
川崎市立川崎中学校	四クラス
伊勢原市立成瀬中学校	二クラス
川崎市立立川島中学校	四クラス
川崎市立京町中学校	三クラス
川崎市立塚越中学校	五クラス
川崎市立西中原中学校	八クラス
秦野市立渋沢中学校	四クラス
川崎市立今井中学校	三クラス
相模原市立藤野中学校	一クラス
横濱市立桂台中学校	一クラス
横濱市立田奈中学校	一クラス
川崎市立平間中学校	一クラス
川崎市立桜本中学校	一クラス
川崎市立宮崎中学校	四クラス



川崎市立宮前平中学校	一クラス
横濱市立永田中学校	一クラス
川崎市立西高津中学校	三クラス
川崎市立東橋中学校	七クラス
川崎市立大蔵中学校	一クラス
川崎市立平中学校	一クラス
川崎市立稲田中学校	五クラス
川崎市立中野島中学校	三クラス
川崎市立長沢中学校	五クラス
川崎市立有馬中学校	三クラス
藤沢市立御所見中学校	一クラス
葉山町立葉山中学校	二クラス
茅ヶ崎市立松林中学校	四クラス
川崎市立御幸中学校	六クラス
茅ヶ崎市立萩園中学校	二クラス
川崎市立臨港中学校	一クラス
川崎市立富士見中学校	二クラス
川崎市立菅生中学校	四クラス
川崎市立住吉中学校	二クラス
川崎市立王禅寺中央中学校	一クラス
横濱市立山内中学校	三クラス
川崎市立金程中学校	一クラス
平塚市立大住中学校	三クラス
川崎市立菅中学校	二クラス
川崎市立川中島中学校	六クラス
川崎市立宮内中学校	二クラス
川崎市立大師中学校	四クラス
川崎市立南河原中学校	一クラス
川崎市立南生田中学校	一クラス
藤沢市立高浜中学校	一クラス
川崎市立井田中学校	三クラス
川崎市立東高津中学校	二クラス
川崎市立玉川中学校	四クラス
川崎市立南大師中学校	四クラス
川崎市立野川中学校	四クラス
横須賀市立神明中学校	一クラス
川崎市立日吉中学校	三クラス
川崎市立柿生中学校	二クラス
横濱市立領家中学校	一クラス
横濱市立大道中学校	五クラス
山梨県	
富士吉田市立富士見台中学校	一クラス
甲府市立南西中学校	三クラス
組合立河口湖南中学校	六クラス
甲府市立東中学校	三クラス

甲府市立南中学校	一クラス
山中湖村立山中湖中学校	二クラス
甲府市立北東中学校	一クラス
富士吉田市立明見中学校	二クラス
富士吉田市立下吉田中学校	六クラス
甲府市立北中学校	二クラス
忍野村立忍野中学校	一クラス
甲府市立上条中学校	二クラス
甲斐市立双葉中学校	一クラス
甲府市立城南中学校	一クラス
長野県	
岡谷市立岡谷西部中学校	三クラス
中野市立中野平中学校	三クラス
諏訪市立上諏訪中学校	二クラス
千曲市立更埴西中学校	三クラス
飯田市立竜峽中学校	二クラス
松本市立筑摩野中学校	三クラス
茅野市立永明中学校	四クラス
山ノ内町立山ノ内中学校	一クラス
長野市立第三陽中学校	六クラス
上田市立第三中学校	四クラス
長野市立篠ノ井東中学校	三クラス
大町市立第一中学校	一クラス
佐久市立浅間中学校	七クラス
上田市立第五中学校	五クラス
塩尻市立塩尻西部中学校	三クラス
須坂市立相森中学校	四クラス
辰野町立辰野中学校	四クラス
長野市立東部中学校	三クラス



松川町立松川中学校	一クラス
箕輪町立箕輪中学校	五クラス
高森町立高森中学校	四クラス
上田市立丸子北中学校	四クラス
長野市立西部中学校	二クラス
諏訪市立諏訪南中学校	三クラス
長野市立篠ノ井西中学校	六クラス
小諸市立芦原中学校	一クラス
天龍村立天龍中学校	一クラス
須坂市立常盤中学校	二クラス
須坂市立墨坂中学校	四クラス
長野市立川中島中学校	三クラス
中野市立南宮中学校	四クラス
長野市立松代中学校	一クラス
長野市立若穂中学校	一クラス
長野市立櫻ヶ岡中学校	四クラス
長野市立犀陵中学校	一クラス
佐久市立中込中学校	二クラス
松本市立開成中学校	一クラス
松本市立会田中学校	一クラス
小諸市立小諸東中学校	六クラス
安曇野市立豊科南中学校	一クラス
茅野市立北部中学校	三クラス
塩尻市立丘中学校	五クラス
伊那市立春富中学校	二クラス
上田市立塩田中学校	五クラス
小布施町立小布施中学校	三クラス
御代田町立御代田中学校	三クラス
長野市立豊野中学校	三クラス
松本市立鎌田中学校	一クラス
東御市立東部中学校	一クラス
信濃町立信濃小中学校	二クラス
須坂市立東中学校	二クラス
中野市立高社中学校	三クラス
上田市立第四中学校	三クラス
栄村立栄中学校	一クラス
長野市立北部中学校	三クラス
飯田市立飯田西中学校	二クラス
長野市立鬼無里中学校	一クラス
高山村立高山中学校	二クラス
長野市立堀花中学校	三クラス
上田市立第六中学校	三クラス
木島平村立木島平中学校	二クラス
筑北村立聖南中学校	一クラス
佐久市立浅科中学校	一クラス
飯田市立旭ヶ丘中学校	四クラス
安曇野市立堀金中学校	二クラス

諏訪市立諏訪西中学校	一クラス
千曲市立屋代中学校	一クラス
松本市立清水中学校	二クラス
白馬村立白馬中学校	一クラス
松本市立梓川中学校	二クラス
生坂村立生坂中学校	一クラス
飯田市立鼎中学校	三クラス
坂城町立坂城中学校	四クラス
岡谷市立岡谷東部中学校	四クラス
岡谷市立岡谷北部中学校	一クラス
野沢温泉村立野沢温泉中学校	一クラス
長野市立戸隠中学校	一クラス
佐久市立白田中学校	一クラス
松本市立明善中学校	二クラス
安曇野市立明科中学校	二クラス
佐久市立野沢中学校	二クラス
長野市立東北中学校	四クラス
長野市立信州新町中学校	一クラス
下諏訪町立下諏訪社中学校	二クラス
上松町立上松中学校	一クラス
長野市立広徳中学校	三クラス
喬木村立喬木中学校	二クラス
飯山市立城南中学校	三クラス
富士見町立富士見中学校	一クラス
大町市立八坂中学校	一クラス
安曇野市立三郷中学校	四クラス
安曇野市立穂高西中学校	一クラス
川上村立川上中学校	一クラス
安曇野市立穂高東中学校	一クラス
信州大学教育学部附属松本中学校	一クラス
茅野市立東部中学校	二クラス
大鹿村立大鹿中学校	一クラス
岡谷市立岡谷南部中学校	二クラス
駒ヶ根市立東中学校	二クラス
松本市立菅野中学校	一クラス
松本市立山辺中学校	一クラス
松本市立丸ノ内中学校	一クラス
飯島町立飯島中学校	二クラス
阿智村立阿智中学校	三クラス
松本市立信明中学校	二クラス
組合立依田窪南部中学校	二クラス
長和町立和田中学校	一クラス
東御市立北御牧中学校	一クラス
南箕輪村立南箕輪中学校	四クラス
千曲市立殖生中学校	一クラス
組合立小海中学校	一クラス
伊那市立東部中学校	五クラス



●新潟県	
魚沼市立入広瀬中学校	一クラス
三条市立第二中学校	一クラス
小千谷市立片貝中学校	二クラス
●富山県	
立山町立雄山中学校	一クラス
富山市立北部中学校	一クラス
高岡市立南星中学校	一クラス
富山市立城山中学校	三クラス
富山市立和合中学校	三クラス
富山市立堀川中学校	一クラス
●福井県	
福井県立啓新高等学校	二クラス
福井県立敦賀高等学校	三クラス
福井県立美方高等学校	五クラス
●岐阜県	
多治見西高等学校	十クラス
●静岡県	
沼津市立静浦小中一貫学校	一クラス
沼津市立原中学校	四クラス
富士宮市立富士根北中学校	一クラス
富士宮市立富士第三中学校	四クラス
沼津市立第二中学校	一クラス
静岡市立南中学校	一クラス

静岡市立西奈中学校	二クラス
富士宮市立大富士中学校	五クラス
浜松市立富塚中学校	二クラス
浜松市立佐鳴台中学校	三クラス
御殿場市立南中学校	四クラス
函南町立東中学校	一クラス
清水町立南中学校	三クラス
浜松市立江西中学校	二クラス
袋井市立周南中学校	一クラス
沼津市立片浜中学校	一クラス
伊豆市立天城中学校	一クラス
浜松市立水窪中学校	一クラス
菊川市立菊川西中学校	六クラス
静岡市立服織中学校	二クラス
掛川市立大浜中学校	四クラス
掛川市立三ヶ日中学校	三クラス
菊川市立菊川東中学校	四クラス
吉田町立吉田中学校	三クラス
富士市立富士川第二中学校	二クラス
静岡市立蒲原中学校	一クラス
藤枝市立岡部中学校	三クラス
焼津市立大井川中学校	一クラス
長泉町立長泉中学校	二クラス
伊豆の国市立大仁中学校	三クラス
袋井市立袋井南中学校	二クラス
袋井市立北浜東部中学校	五クラス
小山町立小山中学校	一クラス
袋井市立袋井中学校	三クラス
沼津市立戸田中学校	一クラス
掛川市立北中学校	五クラス
掛川市立西中学校	三クラス
浜松市立龜玉中学校	三クラス
浜松市立立蜆塚中学校	四クラス
浜松市立笠井中学校	五クラス
伊豆市立中伊豆中学校	一クラス
浜松市立立中東中学校	一クラス
島田市立金谷中学校	二クラス
島田市立初倉中学校	三クラス
島田市立立六合中学校	三クラス
藤枝市立藤枝中学校	二クラス
藤枝市立西益津中学校	二クラス
藤枝市立広幡中学校	三クラス
浜松市立曳馬中学校	七クラス
富士宮市立北山中学校	三クラス
富士市立吉原東中学校	一クラス
富士宮市立柚野中学校	一クラス
富士市立富士中学校	七クラス

焼津市立焼津中学校	三クラス
静岡市立清水第六中学校	一クラス
静岡市立清水第二中学校	二クラス
静岡市立清水第一中学校	二クラス
伊豆の国市立長岡中学校	三クラス
富士宮市立長根南中学校	六クラス
富士宮市立富士宮第二中学校	三クラス
富士市立鷹岡中学校	四クラス
富士市立吉原北中学校	三クラス
富士市立吉原第二中学校	四クラス
掛川市立城東中学校	三クラス
浜松市立佐久間中学校	一クラス
富士市立吉原第一中学校	三クラス
富士市立須津中学校	四クラス
富士市立立吉原第三中学校	三クラス
富士市立立吉原第三中学校	三クラス
富士市立立吉原第三中学校	六クラス
富士市立立吉原第三中学校	七クラス
富士市立立吉原第三中学校	四クラス
富士市立立吉原第三中学校	六クラス
伊東市立立北中学校	二クラス
伊東市立立佐美中学校	二クラス
伊東市立門野中学校	三クラス
伊東市立南中学校	二クラス
御殿場市立西中学校	三クラス
三島市立南中学校	二クラス
三島市立北中学校	一クラス
沼津市立浮島中学校	二クラス
三島市立錦田中学校	三クラス
沼津市立第三中学校	四クラス
沼津市立金岡中学校	六クラス
沼津市立第四中学校	一クラス
三島市立中郷中学校	三クラス
沼津市立第五中学校	四クラス
函南町立函南中学校	一クラス
沼津市立第一中学校	二クラス
沼津市立大岡中学校	六クラス
沼津市立今沢中学校	三クラス
静岡市立中島中学校	一クラス
静岡市立高松中学校	三クラス
静岡市立豊田中学校	四クラス
富士宮市立芝川中学校	二クラス
富士市立大淵中学校	四クラス
静岡市立美和中学校	三クラス
静岡市立城山中学校	二クラス
静岡市立長田西中学校	一クラス
御殿場市立原里中学校	五クラス



●愛知県	
西塾中学受験部	一クラス
名古屋経済大学高蔵高等学校	二クラス
名古屋国際中学校・高等学校	四クラス
名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校	二クラス
●大阪府	
近畿大学附属高等学校	一クラス
常翔啓光学園高等学校	一クラス
●兵庫県	
神戸星城高等学校	一クラス
●岡山県	
岡山市立石井中学校	一クラス
岡山大学教育学部附属中学校	一クラス
●徳島県	
徳島県立城東高等学校	二クラス
徳島県立鳴門高等学校	三クラス

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学名誉教授 竹居明男

道真公、配所に近い高山にて、無実の由を天に訴える。

—「天拝山」の段—

第五巻の巻頭、二紙にわたる詞書は次のように始まる。

筑紫におはしましける間、御身に罪なき由の祭文を作りて、高山に登りて、七箇日の程とかや、天道に訴え申させ給ひける時、此の祭文、漸く飛び登り、雲を分けて至りにけり。帝釈宮をも打ち過ぎ、梵天までも登りぬらんとぞ覚えし。そして、かの釈迦菩薩が底沙仏の前で七日七夜にわたって足の指をつま立ててその徳を賛嘆し、弥勒に



先だつて仏に成つた、という伝説と並べて

菅丞相は、現身に七日七夜、天に仰ぎて身を碎き、心を尽くして、あな恐ろし、天満大自在天神とぞ成らせ給ひける。

と結ばれている。天神縁起絵巻全巻の中で、最も有名な段の一つ、いわゆる「天拝山」の段である。

これに対応する画面は計五紙にわたる長大なもので、そびえ立つ山の頂上に立つて、漆黒の袍に深紅の衣をのぞかせた束帯姿の道真公が、祭文を結び付けた杖を天高く差し出して一心不乱に祈請する様子を、画面中央に描き出している。

一見して急峻な山容に加え、山麓の左右に鹿の遊ぶ姿、また道真公の左右には棚引きわたる雲（霧？）を描いて「高山」の趣きを強める一方、道真公の身長は画面天地の約四分の一を占めてアンバランスとしか言いようがないが、決して違和感を生じさせないような不思議な緊張感がみなぎっている。

画面左端下には、茅屋の中で読経する（？）僧侶たちを描き、その傍らには屈曲する竹垣や秋草が咲き乱れている様子を描いて趣を添える。しかし、もともとから僧侶のことは詞書には記載がなく、後続する他の天神縁起にも登場しない、承久本独自のモチーフで、その解釈には今後の検討が待たれる。

本段に先行するものとしては、大江匡房（一〇四一—一一一一）の談話を書き留めた『江談抄』の「聖

廟の西府の祭文、天に上る事」があるが、もっと素朴な内容で、「天拝山」の名称もなく、「山の名尋ねべし」（原、漢文）と記されている。

かつては、この段を根拠に、道真公が神になったのは生前か没後かということがまことしやかに問われたこともあったが、この段の眼目は、道真公を梵天・帝釈天に代表される仏教守護神と同等に位置付けて、これより後の縁起諸段における怨霊の活動と天満宮鎮座の経緯——実在人物が神として祀られる——を予告する点にあることを看取すべきであろう。

ちなみに現福岡県太宰府市内の大宰府政庁跡から南南西約二キロの地に標高二五〇メートル余の「天拝山」があり、山頂には「天拝石（岩）」も存するが、実は意外に新しい名称で（縁起の詞書にも見えないことに注意）、古くは「天判山」と称したらしいことも、付言しておきたいと思う。「天判」とは、まさに自己の行為の正邪・当否の判断を天や神仏にゆだねる行為を称するものであった。

道真公が逝去し、今の安楽寺の地に埋葬される。

—「安楽寺墓所」の段—

つづく第二段は、道真公の逝去と遺骸の埋葬を主



「天拝山」の段

題とする。

延喜三年（九〇三）二月二十五日に、ついに道真公は「今の太宰府の榎寺」にて生涯を閉じた。詞書は、これを釈迦の涅槃に「五十二類（涅槃に集まつた天部・人間・禽獣のすべて）」が「血の涙を流し」たことに譬えて、「今の太宰府の榎寺の……別れには、六十余州の身の毛ぞ弥立ちける」と記し、さらに次のように結んでいる。

筑前国四堂の辺に御墓所を点じて納め奉らんとしける時、御車忽ちに道中に止まりて、肥性多力の筑紫牛、引けども働かず、其の所を始めて御墓所と定めて、今の安楽寺とは申すなり。

榎寺は、もともと菅公が実質二年余りを過ごした配所で、「府の南館」と称された（『菅家後集』所収「南館の夜に都府の礼仏懺悔を聞く」）。その場所は大宰府政庁をほぼ真南に隔たること約七〇〇メートルの地にあたり、今、西鉄二日市駅から福岡方面へ少し走った線路沿いの北側にある「榎社」がそれで、現在は大宰府天満宮の飛び地境内となっている。

また、当初、菅公の墓所と定められた「四堂」は「四寺」と称した史料もあり、その所在地については諸説あるが未詳である。

さて、二紙のみの、さほど長くない画面には、菅公の遺骸を乗せた牛車が墓所をめざしていた途中で急に動かなくなった様子と、止むを得ず、その地を墓所に定めて、今しも遺骸を埋める穴を掘り始めた人夫たちの様子を描く。

轎につながれたままでへたりこんだ黄斑牛は、いかにも丸々と肥え太り（「肥性」は、先行する建久本では「肥状」、建保本では「肥満」と記す）、牛車の周辺には僧侶や従者たち（草鞋をなかせたり、叩き鐘を打ち鳴らす姿も見える）、また穴を掘り、すくった土を周囲になげうつ数人の人夫たちの姿が生

き生きと描かれる。牛の手前、額烏帽子を着けて白い布を垂らした男は燃え盛る松明をかかげているので、夜間であることを暗示している。左上隅に、後足で首のあたりを掻いている白犬が描かれているのも、承久本特有の細やかさと言えようか。

こうした経緯で、菅公の遺骸が葬られた場所に、程なくして創建されたのが、詞書にある「安楽寺」である。同寺は『菅家御伝記』に引く「安楽寺学頭安修奏状」等によれば延喜五年（九〇五）に菅公の門弟味酒安行が神殿を建てたのが始まりと伝え、後に「天満宮安楽寺」などとも称され、今日の太宰府天満宮に至っている。

（つづく）



「安楽寺墓所」の段

第一回北野研修会

「北野祭礼の実態と意義」

— 京都文化博物館 西山学芸員が解説 —



「北野社の祭りは一体どのようなものだったのか」をテーマに、第一回北野研修会を五月十九日に社務所で開催した。

講師に京都文化博物館学芸員の西山剛氏をお招きし、「北野祭」再興に向けて、その歴史を紐解き、北野祭礼の実態を検証するために行うもので、崇敬団体「梅風講社」講社長小石原満氏、神社青年会「神若会北野天神花傘会」井上会長ら会員七名が参加して行われた。

西山氏の研究資料をもとに、北野祭礼の変遷、特に中世期における北野社と室町幕府のつながりから見る北野祭礼などを解り易く説明された。

今後この研修会を通じ、あらゆる観点から北野祭礼を分析し、祭礼復元の足掛かりとしたい。



ボーイスカウト第八十五団だより

●平成二十八年度育成会総会並びに上進式

ボーイスカウト京都第八十五団（本部当宮）育成会の平成二十八年度総会を四月二十三日午後四時から社務所大広間で開催した。

国旗儀礼の後、橘育成会長の代理として加藤副会長が挨拶し、その後議事に入り、平成二十七年度の活動報告・決算報告・二十八年度の活動計画案・予算案を承認した。



この後、本殿において約三十人が参列して上進式が行われた。ビーバー隊に一名とボーイ隊からベンチャー隊へ二名が上進した。誓いの言葉を述べ、梶道嗣団委員長らが励ましの言葉を贈った。

◎二十八年度の八十五団の主な活動計画は次の通り。

▽第十二回神社スカウト全国大会（八月六日・九日）
▽団行事「大料理大会」（十月中旬）▽餅つき大会（十二月下旬）▽火縄奉仕（十二月三十一日）▽ヤチマタ募金（同三日）▽全国女子駅伝治道奉仕（同十五日）▽伊勢参宮（同下旬）▽全国車イス駅伝治道奉仕（三月五日）

●鎮守の森で清掃奉仕

初夏の日差しがまぶしい史跡御土居で五月二十二日、当団ボーイ隊が紙屋川の清掃奉仕活動を実施した。鎮守の森の保全活動の一環として実施したもので、川底に溜まっていたゴミなどを拾い集めた。



神若会だより

●氏子区域の翔鸞小学校で太鼓指導

京都市上京区の翔鸞小学校で五月十七日、天神太鼓会メンバーが和太鼓指導を行った。同小学校ではこの四月より



新たに太鼓クラブが設立され、氏子区域である北野天満宮とも御縁が深いことから講師の依頼を受けたのがきっかけ。設立したばかりで部員はまだ七名と少ないが、子供たちの太鼓を楽しむながら一生懸命に叩く姿が見られた。

氏子の子供たちとホタル授業



氏子区域の朱雀第四小学校で五月二十七日、神職・巫女が三年生の生徒らにホタル授業を行った。

当宮では境内周辺の環境整備を進めてきたこともあり、十年ほど前から再びホタルが見られるようになった。

朱四小でも数年前より校庭に川などをつくり、ホタルの生育に努めている。

約二時間の授業で、ホタルの生態や環境について楽しく学んだ。



京都学園大に菅公の御心を

京都太秦キャンパスで除幕式

橘宮司揮毫『文道大祖 風月本主』の扁額寄贈
天神川（紙屋川）で繋がるご縁、紅白梅の植樹も



京都学園大学に菅原道真公の御心をこめた『文道大祖 風月本主』の扁額と紅白の梅木一対が贈られ、四月二十二日午前十時から京都市右京区の同大学京都太秦キャンパスで除幕式と植樹が行われた。橘重十九宮司と田辺親男学校法人京都学園理事長の長年の親交が縁となったもので、境内を流れる紙屋川は、同大学横では天神川となつて繋がっており、菅公の御心が大学キャンパス内で実を結ぶことになった。

「文道大祖 風月本主」とは、平安時代の歌人で文章博士の大江匡衡が寛弘九年（一〇一二）に天神を祀った願文の中に出ており、学問や詩歌の祖神として菅原道真公を称えた言葉。いわば天神信仰の源といえるもので当宮の楼門にも扁額として掲げられている。

贈られた扁額は、橘宮司の揮毫。縦三・一メートル、横二・一メートルと大きなもので、太秦キャンパス

の北館一階の北ロビーに掲げられた。

橘宮司と田辺理事長は、十年來の親交があり、昨年は、アメリカのハーバード大学と一緒に訪問、その際、田辺理事長は講演の場に立たれ、菅原道真公や日本人の天神信仰観などについて紹介されている。

除幕式で橘宮司は、「江戸時代の寺子屋では、天神さまの神影を掲げて読み、書き、そろばんを教え、これが日本人の教育を向上させ、また、提唱された和魂漢才の精神が明治維新の原動力となり、日本の近代化に繋がった。境内を流れる紙屋川は、こちらでは天神川となつて流れている。学生さんの励みになればと思います、書かせて頂いた」と、挨拶した。引き続き田辺理事長が、「太秦キャンパスがスタートして丸一年。今年も多くの新入生を迎えた。これも天神信仰のおかげ。開学四十七周年になる年に、扁額と梅の木をご寄贈いただき感謝にたえない。大学の発展と学生の教育に一層力を入れていきたい」と、謝辞を述べた。

最後に学生を代表して広瀬祐紀さん（学友会中央委員会議長）が、お礼の言葉を述べて式典を終えた。

この後、

御池通に面した学内で白梅「文殊」と紅梅「都錦」各一對の植樹が行われた。

天神さん
思い出写真館

「明治三十年九月撮影」とある新しく見つかった楼門建築工事中のきわめて珍しい写真である。

楼門は、明治三十五年斎行の一千大万燈祭の記念事業として建てられた。明治十七年に計画されたが、工事費不足で一時中断するなど難航、講を結成して資金集めが行われた、という。竣工は、明治三十一年四月というから、この写真は、その半年ほど前に撮影されたものだ。下から上に斜めに渡された足場の上を歩く太い材木を担いだ十人ほどの男性の姿が写っている。百二十年ほど前だけに人力に頼る部分が大きかったのだろう。

付帯工事費を含めた楼門建築の総工費は、約一万三千八百五十余円。当時は官幣社だった「僅少の官費にではできず」とあり、楼門が今にあるのは崇敬者の寄進の賜物といえよう。



献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

四月「数」

小倉百人一首で九十八番

好きだった不惑の時代

数くらべせむと歎く素戔

心素直に語りし神話

床に伏す夫の快癒を祈りつつ

今日も数珠もむ朝な夕なに

かくれんぼ二十数へて振り返る

子もいたろうな被災の学舎

三回忌だされし菓子を幼子の

小さきゆびはかぞへあげゆく

歌合はせ左右の競ひ数差しの

並ぶ紅梅白旗桜

大阪府 村島麗門
福井県 武曾豊美
岐阜県 波多野千寿子
京都市 若狭静一
京都市 塩小路光胤
京都市 白石雅彦
東京都 武曾豊美

【評】数を数えるという、日常誰もが無意識に行っていることを歌として詠む。受け取り手もまた、歌を通して、自らも日頃なしているであろう行為を振り返り、その意味を問う。日を数えて心待ちにする、物の数を数えて列挙する、手を打って拍子をとるなど。数差しは勝敗の数を視覚化する。

五月「灘」

東征のヤマトタケルや走水

灘鎮めたりオトタチバナは

杉玉の揺れる神戸の灘の街

海の香りとジャズのスウィング

潮流のうずまく瀬戸の出航に

灘の海路の無事を祈りぬ

玄海灘誰も恐れて船出さぬ

命をかけてみかん船出る

灘いくつ越へて春来しいかなごを

求む列あり明石の町に

酒の香のただよふ海辺灘五郷

うまさ名水ひろ田の恵み

海の表情は、沖、潮、江、潟、波、渚など、それぞれに異なり、それぞれ歌に詠まれてきた。灘は、沖合で波が荒く、潮流がはやいところを指すが、瀬戸内や豊後水道など、波が穏やかな地域にも使われる。京に近い灘といえば神戸の灘になるだろうか。

六月「うつほ」

わだつみのおだひにひそむ鯉かな

時勢うかがふかの北の国

イエバスのギターの音色うつほなれば

アンダルシアの光が見える

としなかはうつほなるかな胸のうち

ゆるりながるとときみすえつつ

高山の鐘乳洞に感じたり

幾千年のいにしへ偲ぶ

戦後など知るよしもなし海底に

潜むうつほの眼差し

奥山の古木のうつほに住む熊よ

ひとりぬる夜もさみしかるらむ

波斯国の琴の音訝ゆる秋津島

うつほの南風代々にあまねし

【評】漢字を当てれば、空、洞と記す。中が空っぽであることという。平安時代の長編物語『うつほ物語』は、森の木の下で子を育て、秘琴の技を教えた物語。音にちなむ歌がいくつもみられたのは偶然か。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。



正式参拝された皆様(敬称略)(四月～六月)

四月 六日(水) 上京区「春の全国交通安全運動」
四月二十八日(木) 檀王京都歴史散策の会
五月 十一日(水) 神道青年会近畿地区役員会
五月 十五日(日) ランボルギーニ
・ヘリテージ・ギャザリング
五月 十六日(月) 日野神社敬神婦人会
五月二十六日(木) 丹生川上神社上社
五月 三十日(月) 初西稻荷講
六月 十一日(土) コツパ・デイ・キョウト
六月 十六日(木) 平安弥生俳句会
六月 十八日(土) 神明社
六月 十八日(土) J R 東海
六月 二十日(月) 全国天満宮梅風会
六月二十一日(火) 京都SKYシア大学
六月二十六日(日) 勝川町天神社奉賛会

挙式された皆様(四月～六月)

四月 三日(日) 伊藤公一・紗絵子 ご夫妻
四月 五日(火) 植木健・三奈子 ご夫妻
四月 九日(土) 森翔・みなみ ご夫妻
四月 九日(土) 寺石隆一・紗代子 ご夫妻
四月 十日(日) 石野雄一・ハリエツト ご夫妻
四月 十八日(月) 福田拓平・芙実可 ご夫妻
五月 八日(日) 道場浩基・雅世 ご夫妻
五月 十四日(土) 寺尾裕佑・江理 ご夫妻
五月 二十日(金) 杉本喜治・友美 ご夫妻
五月二十八日(土) 佐藤龍太・礼 ご夫妻
五月二十九日(日) 河越洋平・菜都 ご夫妻
六月 四日(土) 木村知玄・由貴 ご夫妻
六月 五日(日) 八木亮・緑 ご夫妻
六月 十一日(土) 八木史生・志和 ご夫妻
六月 十八日(土) 飯迫博之・千鶴 ご夫妻
六月 十九日(日) 塚本章人・佳奈映 ご夫妻
六月二十六日(日) 家氏伸雄・佐智世 ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の

末永いご多幸をご祈念申し上げます。

「社頭古絵図」(一)

当宮所蔵の「社頭古絵図」は、室町時代中期の北野社を描いたものである。「社頭古絵図」の名称は、明治八年(一八七五)十月の「古文書宝物什器再取調書」にこの名称をみることができ、原本を収めた箱蓋には「当社御絵図之箱」と墨書されている。また、宝永六年(一七〇九)の「御神宝改帳」に「大床御長持二入分」の一つとして「当社絵図箱 年預」とあり、古くから当社に神宝として伝わったものであることが分かる。

さらに、大正十年(一九二一)に摸本が作成されるが、その軸外題には「社頭古絵図」(称北野曼荼羅)とあり「北野曼荼羅」とも称されていたことがわかる。また、美術史界では、「北野曼荼羅」「北野宮曼荼羅」「北野参詣曼荼羅」などと呼ばれている。

この古絵図については、美術史・歴史分野からの多くの研究がある。ここでは、そのなかから西山克さんのお仕事(「夢見られた空間―北野曼荼羅―」「聖地の想像力」法蔵館、一九九八年)に主に依りながら、この古社図を紹介していきたい。

縦一二七・一センチ、横七二・六センチの絹本着色の図である。作成された時期については、室町時代、北野社は文安元年(一四四四)と延徳二年(一四九〇)に社殿が焼失しているが、本図は、少なくとも延徳以前の様子が描かれているとされている。そのなかで西山さんは、画像の詳細な分析から、文安元年をさほど遡らない

天満宮 歴史の一韵

京都大学名誉教授

藤井 譲治

時期の社頭の景観を描いたものと推定されている。

図像の詳細は、次号以下で紹介していくが、まず概要を記しておこう。正面の社殿には神仏習合思想を視角化した垂迹画の様式を踏襲して束帯の天神像を描く。画面最上方の五つの円相に左から慈恵大師・愛染明王・薬師如来・金輪

聖王・不動明王が配置されている。

樹木を境としたこの円相の下部に、お宮の境内が本殿を中央に描かれている。東門を入って右に鐘楼、その北に神饌等を準備する竈殿、そして北辺に三所皇子、貴船、老松、十二所が、次いで西辺に福部、十禅師、尼神、御霊、早鳥、今尾、火神子、朝日寺、那伊鎌、毘沙門堂、心経堂、周枳明神、一拳、大歳八所、一位殿、二位殿、一夜松の諸社堂、南門の西には輪蔵、二またの杉、東には多宝塔、法華堂が描かれる。さらに南門外には大鳥居の西に西宮殿、松童八幡、忌明塔、連歌会所を、また南には足利義持が植えたときれる影向松と経堂の屋根が描かれている。





瑞饋祭

ずいきまつり

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代天慶九年（九四六）〜康保四年（九六七）にはじまりと伝えられています。

年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を「お迎えする」ことで、氏神としての天神様を改めて意識し感謝する心が育まれます。

還幸祭渡御には、御鳳輦三基・御羽車一基・瑞饋御輿大小二基などが出御、その他供奉者等あわせて総勢二〇〇名が氏子区域を巡行します。

〔祭礼日程〕

一日	神幸祭	午後一時	行列出発
二日		午後四時	御旅所到着
二日		午前十時	献茶祭
三日		午後三時	（表千家宗匠奉仕） 甲御供奉饌
四日	還幸祭	午後一時	行列出発
五日		午後四時半	本社到着
五日		午後三時半	后宴祭 （八乙女舞奉納）



七五三

詣は、知恵の神様

北野天満宮へ

☆七五三詣の皆様には、もみじ苑入苑料優待あり



七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。

北野天満宮は、全国天満宮の総本社です。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない宝です。

天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様のご加護で知恵を授かりましょう。

ご家族お揃いでのご参拝をお待ちいたしております。

一、受付日

十一月中、毎日受付いたします。
※但し、十一月二十三日（水）、十一月二十六日（土）は、祭典のためご祈禱を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。

※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さればお受けいたします。

二、七五三詣初穂料

一人 五千円より

二人 八千円（兄弟姉妹に限る）

三人 一万二千元（兄弟姉妹に限る）

三、授与品・記念品

知恵守、千歳飴、祝い笹、ディズニの学用品セット

四、案内状持参の特典

特別授与品の「勾玉」を進呈

御縁日 境内ライトアップ

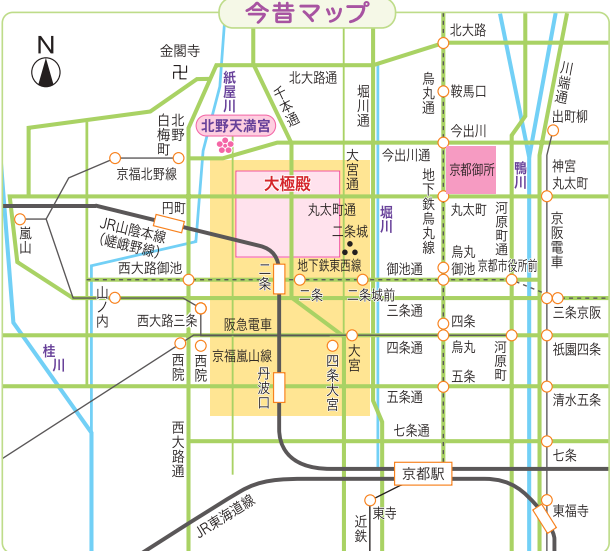


毎月25日は天神さんの御縁日。夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降）

